

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月31日

上場会社名 相鉄ホールディングス株式会社

上場取引所 東

コード番号 9003 URL <http://www.sotetsu.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 英一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員経営戦略室部長 (氏名) 滝澤 秀之

TEL 045-319-2043

四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	170,893	△5.1	18,492	19.5	15,546	27.7	9,099	44.1
25年3月期第3四半期	180,161	△2.3	15,473	22.9	12,178	39.5	6,313	△5.3

(注)包括利益 26年3月期第3四半期 9,802百万円 (59.7%) 25年3月期第3四半期 6,138百万円 (△42.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	18.57	—
25年3月期第3四半期	12.88	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	557,496	91,647	16.1
25年3月期	549,360	84,343	15.0

(参考)自己資本 26年3月期第3四半期 89,525百万円 25年3月期 82,288百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
26年3月期	—	2.50	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	2.50	5.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	229,570	△6.4	21,890	5.2	17,850	11.3	9,110	18.2	18.59

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	490,727,495 株	25年3月期	490,727,495 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	674,270 株	25年3月期	582,789 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	490,100,149 株	25年3月期3Q	490,155,886 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記の業績予想に関する事項につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、政府による経済対策等の効果により、雇用情勢の改善や設備投資に持ち直しの動きが見られ、個人消費も持ち直す等、景気は回復しつつあるものの、海外景気の下振れによる影響が懸念されることから、先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢下、相鉄グループでは鋭意業績の向上に努めました結果、当第3四半期連結累計期間の営業収益は1,708億9千3百万円（前年同期比5.1%減）となり、営業利益は184億9千2百万円（前年同期比19.5%増）、経常利益は155億4千6百万円（前年同期比27.7%増）、四半期純利益は90億9千9百万円（前年同期比44.1%増）を計上するにいたしました。

各セグメント別の状況は以下のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

a. 運輸業

鉄道業におきましては、国土交通省の補助を受けて、弥生台駅に昇降式ホームドアを設置いたしました。これは約1年間の実証試験を目的としたもので、この試験結果を基に、更なるお客様へのサービス向上と「人にやさしい」駅づくりに努めていくものであります。また、引き続き星川・天王町駅付近連続立体交差工事を推進するとともに、JR線及び東急線との相互直通運転計画につきましても、鋭意推進いたしております。そのほか、相鉄ホテル㈱と共同企画で「ホテルのスイーツと電車基地見学ツアー」を実施いたしました。このイベントは女性鉄道ファンをターゲットとした初の試みとして開催されました。また、Twitterによる運行情報配信を開始いたしました。

自動車業におきましては、引き続きバリアフリー化を推進し、ノンステップバス11両を導入するとともに、パソコン、スマートフォン及び携帯電話でバスの運行情報等が検索できるバスロケーションシステムの対象路線を全営業所に拡大し、サービスの向上を図りました。また、横浜駅西口～河口湖駅間を運行している高速バス路線では、夏季臨時便のうち1往復を富士山五合目まで延伸し、世界文化遺産に登録された富士山周辺への利便性の向上を図りました。

以上の結果、運輸業全体の営業収益は288億1千1百万円（前年同期比1.6%減）、営業利益は58億2千4百万円（前年同期比4.3%増）となりました。

b. 流通業

スーパーマーケット業におきましては、川崎市麻生区に「そうてつローゼン柿生店」を開業するとともに、三浦郡葉山町の「そうてつローゼン葉山店」をはじめ31店舗において改装等、店舗の活性化を実施したほか、「そうてつローゼン緑園都市店」をはじめ22店舗において営業時間の延長を実施し、利便性の向上に努めました。また、毎月2回開催していた「ローゼン市」を毎月4回開催に強化し、収益力の向上を図るとともに、徹底したコストの削減に努めました。

その他流通業におきましては、相鉄流通サービス㈱及び㈱ムーンが10月に「カラオケムーン東所沢店」（埼玉県所沢市）、「カラオケムーン南林間店」（神奈川県大和市）をそれぞれ開業し、事業基盤の拡充と収益力の向上に努めました。なお、カラオケ店は全18店舗となりました。

以上の結果、流通業全体の営業収益は801億2千4百万円（前年同期比0.4%増）、営業利益は5億8千8百万円（前年同期比116.0%増）となりました。

c. 不動産業

不動産分譲業におきましては、横浜市保土ヶ谷区の「パークタワー横濱星川」等の集合住宅並びに綾瀬市内の早川城山住宅地及び横浜市瀬谷区の「サザンヒルズ横浜三ツ境」等の戸建住宅を中心に、集合住宅及び戸建住宅262戸を分譲いたしました。

不動産賃貸業におきましては、横浜市西区の「相鉄北幸第1ビル」及び「相鉄北幸第2ビル」を取得し、事業基盤の拡充を図りました。また、横浜駅西口の「相鉄ジョイナス」及び「ザ・ダイヤモンド」をはじめとしたショッピングセンターにおいて、魅力あるテナントの誘致を行うとともに、新たに「湘南NDビルディング」の運営管理を受託する等、収益力の向上に努めました。

さらに、二俣川駅南口における市街地再開発事業の事務局業務の受託や海老名駅西口における土地区画整理事業の業務代行を通じ、沿線の街づくりを積極的に推進しております。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は455億3千6百万円（前年同期比4.8%減）、営業利益は105億4千9百万円（前年同期比16.2%増）となりました。

d. その他

ビルメンテナンス業におきましては、事業者間の受注競争が激化する厳しい事業環境のなか、東京都内及び神奈川県内において新規物件を受注する等営業基盤の拡大を図りました。

「横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ」では、一部客室階の改修を行ったほか、さまざまなイベントを開催し、集客力や収益力の向上に努めました。

宿泊特化型ホテルを営む「相鉄フレッサイン」につきましては、9月に「相鉄フレッサイン 東京蒲田」（東京都大田区）を開業いたしました。これにより、東京都、神奈川県及び千葉県において営業する店舗は計14店舗となり、引き続き多店舗化による事業基盤の拡充と収益力の向上に努めてまいります。

以上の結果、その他全体の営業収益は254億8千2百万円（前年同期比27.4%減）、営業利益は14億9千5百万円（前年同期比171.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債、純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、固定資産の取得等により前連結会計年度末に比べて81億3千5百万円増加し、5,574億9千6百万円となりました。

負債は、借入金の増加等により8億3千1百万円増加し、4,658億4千9百万円となりました。なお、有利子負債の残高は、借入金・社債合わせまして3,392億5千4百万円となり、109億4千4百万円増加いたしました。

純資産は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等により73億3百万円増加し、916億4千7百万円となりました。なお、自己資本比率は16.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績等を踏まえ通期連結業績予想につきましては、平成25年10月31日に公表しました数値から変更しております。

売上高は、主に運輸業における減収により2,295億7千万円（前回予想比0.0%減）といたしましたが、営業利益は218億9千万円（前回予想比0.5%増）、経常利益は178億5千万円（前回予想比1.4%増）、当期純利益は91億1千万円（前回予想比5.7%増）を見込んでおります。

※ 業績予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,753	11,312
受取手形及び売掛金	11,971	11,110
たな卸資産	29,750	27,139
繰延税金資産	1,835	1,089
その他	7,318	6,389
貸倒引当金	△579	△133
流動資産合計	68,049	56,906
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	185,649	184,505
機械装置及び運搬具（純額）	14,232	13,314
土地	221,939	242,502
建設仮勘定	7,135	8,386
その他（純額）	4,572	4,229
有形固定資産合計	433,529	452,939
無形固定資産		
のれん	2,296	2,184
借地権	3,518	3,527
その他	3,586	2,962
無形固定資産合計	9,401	8,674
投資その他の資産		
投資有価証券	8,897	9,866
長期貸付金	69	65
繰延税金資産	8,225	7,252
その他	21,430	22,044
貸倒引当金	△257	△253
投資その他の資産合計	38,365	38,975
固定資産合計	481,296	500,589
繰延資産		
株式交付費	15	—
繰延資産合計	15	—
資産合計	549,360	557,496

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,537	9,589
短期借入金	52,454	77,279
1年以内償還社債	19,850	24,850
リース債務	361	241
未払法人税等	2,517	1,377
賞与引当金	2,356	859
その他の引当金	519	545
資産除去債務	150	46
その他	37,446	30,478
流動負債合計	126,194	145,268
固定負債		
社債	120,195	117,525
長期借入金	135,810	119,599
リース債務	433	359
繰延税金負債	739	751
再評価に係る繰延税金負債	27,352	27,342
退職給付引当金	21,114	20,817
長期預り敷金保証金	30,060	31,063
資産除去債務	1,815	2,027
その他	1,300	1,093
固定負債合計	338,822	320,580
負債合計	465,017	465,849
純資産の部		
株主資本		
資本金	38,803	38,803
資本剰余金	29,919	29,919
利益剰余金	15,881	22,504
自己株式	△221	△254
株主資本合計	84,383	90,972
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,253	3,873
土地再評価差額金	△5,348	△5,319
その他の包括利益累計額合計	△2,094	△1,446
少数株主持分	2,055	2,121
純資産合計	84,343	91,647
負債純資産合計	549,360	557,496

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
営業収益	180,161	170,893
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	131,956	120,758
販売費及び一般管理費	32,731	31,643
営業費合計	164,688	152,401
営業利益	15,473	18,492
営業外収益		
受取利息	79	78
受取配当金	184	108
受託工事事務費戻入	170	165
貸倒引当金戻入額	99	201
雑収入	181	135
営業外収益合計	715	689
営業外費用		
支払利息	3,826	3,418
雑支出	184	217
営業外費用合計	4,011	3,635
経常利益	12,178	15,546
特別利益		
固定資産売却益	12	283
投資有価証券売却益	89	—
関係会社株式売却益	259	—
補助金	38	9
その他	0	5
特別利益合計	400	298
特別損失		
固定資産売却損	0	56
固定資産除却損	460	405
固定資産圧縮損	38	214
関係会社株式売却損	262	—
減損損失	119	—
その他	1	2
特別損失合計	883	679
税金等調整前四半期純利益	11,696	15,166
法人税、住民税及び事業税	2,976	4,603
法人税等調整額	2,371	1,394
法人税等合計	5,348	5,998
少数株主損益調整前四半期純利益	6,348	9,167
少数株主利益	34	68
四半期純利益	6,313	9,099

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	6,348	9,167
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△208	635
土地再評価差額金	△0	—
その他の包括利益合計	△209	635
四半期包括利益	6,138	9,802
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,102	9,719
少数株主に係る四半期包括利益	35	83

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

「II 当第3四半期連結累計期間 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載のとおりであります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
営業収益							
(1) 外部顧客への営業収益	28,416	79,841	42,975	19,660	170,893	—	170,893
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	395	282	2,560	5,821	9,060	(9,060)	—
計	28,811	80,124	45,536	25,482	179,954	(9,060)	170,893
セグメント利益	5,824	588	10,549	1,495	18,457	35	18,492

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業、ホテル業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より報告セグメントを、従来の「運輸業」、「建設業」、「流通業」、「不動産業」から、「運輸業」、「流通業」、「不動産業」に変更しております。

この変更は、前連結会計年度において報告セグメントとして区分しておりました建設業セグメントについて、前連結会計年度において相鉄建設㈱の全株式を譲渡したことによるものであり、当該セグメントにつきましては重要性が乏しくなったため、第1四半期連結会計期間より「その他」に含めて表示しております。

なお、当該セグメント変更を反映した前第3四半期連結累計期間の報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失金額に関する情報は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
営業収益							
(1) 外部顧客への営業収益	28,206	79,262	45,229	27,463	180,161	—	180,161
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	1,067	527	2,613	7,620	11,829	(11,829)	—
計	29,274	79,790	47,842	35,083	191,991	(11,829)	180,161
セグメント利益	5,585	272	9,082	549	15,489	△15	15,473

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業、ホテル業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。